

松ぼっくり

Q 明智光秀は築城の名手と言われていました。國松石材は福岡城跡上之橋御門石垣保存修復工事に携わりましたが、その福岡城を築城した黒田長政も築城の名手と呼ばれています。黒田長政が最初に入城した城はどこにあったでしょうか。

- ① 西区姪浜 ② 東区名島 ③ 中央区平和

応募方法 同封のハガキ解答欄に回答をご記入の上、御返信下さい。

皆様のご応募
お待ちしております

今回の
商品は
こちら

⑦ 新訂 先祖の話 2名



⑧ 南蔵院 御神木念珠 3名



⑨ 触れないハンド (感染症対策マルチフック) 5名



ATM、ドアノブ、エレベーター等で使用する新型コロナウイルス対策グッズです。

応募期間 2020年10月31日(土)(消印有効)まで

当選発表 賞品の発送をもって当選とさせていただきます。

前号 第34号クイズご当選者

⑦ 新訂 先祖の話

福岡市東区 石崎様
福岡市博多区 古川様
福岡市早良区 津留様

⑧ 竹とステンレスで出来たアジアン風鈴

福岡市博多区 筒井様
福岡市南区 石野様

⑨ 線香花火「蕾」

福岡市博多区 上田様
福岡市博多区 藤様
福岡市早良区 森口様
福岡市西区 原口様
大阪府枚方市 中原様

社員紹介



古賀 亮 (こが・りょう)

生年月日

1990年2月24日

血液型

AB型

マイブーム

お祭り



昨年11月に入社しました古賀と申します。
祭り好きで、幼少の頃より博多祇園山笠に参加しております。
持ち前の明るさとパワーを活かして、日々頑張っていきたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願い致します。

編集後記

初めて松ぼっくりの編集に携わりました。私は「お墓参りっていいね！」のページを担当させて頂きました。この編集をきっかけに、久しぶりに祖父のお墓参りに行くことに。小さな港生まれの祖父にピッタリな海の見えるお墓です。色々なことを懐かしく思い出しました。みなさんにはどんな思い出がありますか？ (濱地香織)

ご意見・ご感想・質問などどんなことでもお便り下さい。

創業300年 技術の

國松石材株式会社

平尾店/福岡市中央区平和3丁目12-27(平尾霊園下)
TEL 092-401-4194 FAX 092-401-4189

工場/糟屋郡篠栗町大字高田字中坪324-1
TEL 092-410-1483 FAX 092-410-1987

<http://www.kunimatu.com> 国松石材 検索

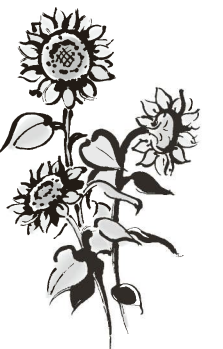
- 1 季節の小話
- 2 お墓の相談室「お墓のクリーニングについて」
- 3 第35回 町名散歩「篠栗」
- 4 お墓参りっていいね！
「お墓参り」の感動的なエピソード
第10回 小説家・山崎 ナオコーラさん
- 5 お客様からの声
- 6 お墓のなるほど講座
- 7 國松さん、今なんしようと？
「アイランドシティ」新しい街の土台を作っています！
- 8 クイズに答えて素敵な商品をGET！

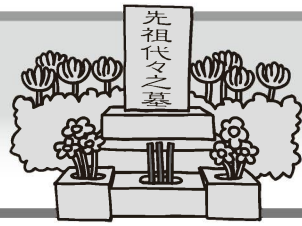


季節の小話 向日葵

夏の風物詩といえば、大輪のひまわりです。黄色く色付いた花は、見ているだけで元気が湧き出るような力強さがあります。ひまわりは大きな花のイメージがありますが、背の高い「ロシアひまわり」という品種は高さ三~四メートルにもなり花の直径も六十センチを越えるそうです。逆に「サンチャイルド」という品種は高さ四十センチほどだそうです。

世界中で花を咲かせているひまわりですが、ヒマワリの花が横向きに咲くのはご存知かと思いますが、その花がどこを向いているのか、みなさん分かりますか。その答は東です。ヒマワリの花は、太陽を追いかけて回るといふ俗説がありますが、実際にはそんなことは起こりません。日当たりの良い場所に植えられたヒマワリは、東を向いて花を開き、そのまま動かないのです。皆様ひまわりを心行くまで楽しみたいときは、ひまわり畑に行きましょう。太陽に向かって大きな花を咲かせたひまわりが数えきれないほど植えられた光景は、まさに圧巻です。暑さにも負けず、まっすぐに咲き誇るひまわりの姿に元気をもらって、夏を乗り切りましょう。





Q&A

お墓の相談室 疑問・質問コーナー



前回は納骨室が地下にあるお墓の入口の雨水の流入を防ぐ入口改造についてのご案内をさせて頂いておりました。今回はお墓のクリーニングについてご紹介をさせていただきます。

お墓(墓石)は外にあるものですが、外にあるということは雨風に終始晒されていることとなります。建てた当初はピカピカに磨いてあっても、雨が降ったり日に照らされたり、またカラスなどの糞害にあったり…お墓も日々そんな汚れと戦っています。それが次第に水垢となり黒ズミができて、また木の葉などが溜まりアクがついたり…時間が経って“味がある”お墓になりますが、それが苦手な方には朗報です。シャツとかじゃないし、お墓ってクリーニングできるの? そう思う方がいらっしゃるかもしれません。

実は、お墓にも専用の洗剤などがあり、そういった洗剤や研磨機を使うとあら不思議、建てた当初のようなきれいなお墓によみがえります。

さあ、今回はそんなお墓のクリーニングの様子をみていきましょう。



黒ズミ・シミ



表面の汚れ落とし

全体の汚れを水で洗い流し、汚れのひどい所は表面をこすってある程度落とします。そして洗剤を塗布して…洗剤が浸透したところで研磨をします。

そして最後にしっかりと水で洗い流すと…あら不思議、元のようなきれなお墓によみがえります!

クリーニングも5万円からとプランをご準備しております。もし気になることがあれば遠慮なくご相談下さい。



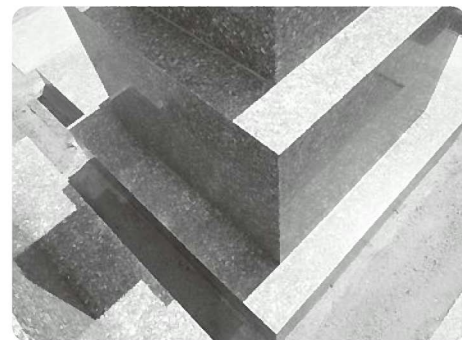
洗剤塗布



研磨



Before



After

快適な空間ができると、ご先祖様もきっと喜んでくれるのではないのでしょうか? 他にもこんなことが気になるという方、どうぞお気軽にご相談ください。

國松さん、今なんしようと?

「アイランドシティ」新しい街の土台を作っています!

現在、福岡市は「未来の福岡市」を牽引する新たな都市として、東区の博多湾を埋め立てた人工島・アイランドシティの開発を進めています。1994年からスタートした開発工事は2020年現在までにアイランドシティ南部～中心部には福岡市中央青果市場「ベジフルスタジアム」や福岡市立こども病院、総合体育館など真新しい建物が並んでいます。

これから開発が行われるアイランドシティ北部(海の中道側)で、国松石材は“街の土台”を作っています。まだむき出しの土や石が転がり、遮るものがないここからは海を挟んでかしかえんなども見えます。何も無い土地に道路と居住区を分ける“境界石”となる大きな石をひとつひとつ重ね、少しずつ街の土台を積み上げています。普段行っているお墓造りとは一味違う、建築土木の基礎工事となるので、その他の関係業者と共に工事を進めることも工事課の社員には大きな刺激になっています。

約10年前に福岡城の石垣修復工事に関わらせていただきましたが、石積み作業は石工としてとても重要な技術です。「石を積む」というと単純なことのように見えるかもしれませんが、鉄骨やコンクリートもない時代に建てられた石垣が数百年の時代を超えて現存することは石工技術の高さを物語っています。技術の継承は一朝一夕ではできませんし、こうした仕事を通じて身に付けることができます。

今、土台を作っている街は、将来私たちやみなさんのお子さんやお孫さんが暮らす街になるかもしれません。そこに私たちの名前が残ることはありませんが、豊かな暮らしができる街を思い浮かべ石を積んでいます。



使用する積み石は福岡を代表する耳納連山より採石される耳納石です。積む前に、土台の高低差に合わせて石の選別から始めます。



一つ一つ丁寧に積んでいきます。石積みは大小の石材の組み合わせで美観と強度を考え熟練の技で仕上げます。



土台の高さは70cmから1mの高さがあり、今回の積み方は野面積みになります。野面とは表面が自然のままということで、石本来の表情が見える積み方です。

國松石材情報発信

● ホームページ <http://www.kunimatu.com>

おまいり福岡

～福岡のお寺や神社をめぐって探訪レポートするブログ～

● Instagram https://www.instagram.com/omairi_fukuoka



お墓のなるほど講座

前回は人は亡くなったらどうなるのか？どこへ行くのか？の前編をお送りしました。

身近で当たり前のことではありますが、深く考えても答えに辿り着くことが難しい問題でしたが、靈魂観という考え方と仏教・神道の考え方と併せて読み解かせて頂きました。

では、あの世はどこにあるのでしょうか？

古来より日本人は亡くなった人の魂はふるさとの美しい山の頂上付近、あるいは海のかなたへ帰ると信じられて、それを言葉

で「かむなび神奈備」=山、「はは妣の国」=海と知らず知らずのうちに受け継いできました。

そして皆さんも神話の中で、イザナギの命(男神)・イザナミの命(女神)の話を目にしたことがあるかと思いますが、イザナミの命が亡くなって往ったのは「い黄泉の国(根の国)」という洞穴の中、つまり地下にある国でした。

とすると日本には三つの「あの世」があります。もうお分かりかと思いますが。山と海の彼方へ帰るのは形のない魂で、形のあるなきがら亡骸は地下へとそれぞれの「自然」に帰るのです。

そのことを少し見てみましょう。

私たちは亡くなった人に十分に報いることができないと「これではあの人が浮かばれない」と言い、何か良いことがあると「草葉の陰できっと父さんも喜んでるよ」と言います。

驚いたことに私たちは「浮かぶたましい」と「草葉の陰(お墓)のたましい」の違いを千三百年以上(日本語としての筆記記録による)も前からちゃんと知っていて、日常語で使い分けてきました。知らず知らずに受け継いでいる日本の自然な文化なんですね。

これで靈魂観とあの世のことが少しわかってきたかと思います。

本当はもう少し書きたいところですが、ページの関係でここまでです。

次回は更に深く、中国儒教の影響を受けた日本のお墓文化を紐解いていきたいと思っています。



先祖の話
新訂版 発行所：株式会社石文社

第35回
町名散歩ささぐり
篠栗

今回の町名散歩は、福岡の名所として、霊場へ多くの参拝者が訪れる糟屋郡篠栗町に行ってきました。

そもそも、篠栗町になぜ霊場が誕生したのでしょうか。

篠栗

806年に唐から帰国した弘法大師空海が太宰府に滞在していた頃、修行に励まれた霊山のひとつが篠栗の若杉山でした。1835年、早良村(現在の早良区姪浜付近)の慈忍尼僧が四国八十八ヶ所遍路を終えた帰路の途中、疫病と飢餓に苦しむ篠栗村の人々に遭遇しました。慈忍尼僧は城戸不動の滝で弘法大師へ救済の祈禱を行い続け、その願いが成就。村から疫病が去ったことから、弘法大師がかつて修行を行った霊地・篠栗村に八十八ヶ所霊場の創設を發願。村を救い創設に尽力した慈忍尼僧亡き後、志を継いだ村人たちによって江戸後期に篠栗四国霊場が完成しました。

時代が明治へ変わる頃に廃仏毀釈の影響で存続の危機に陥りました。その時、村民たちは霊場を守るため、仏像を各家々に持ち帰ってお守りしたそうです。村民たちの十数年に及ぶ嘆願の結果、1899年に高野山から南蔵院の招致が決定し、篠栗四国八十八ヶ所霊場の存続が認められました。

今回の取材は釈迦涅槃像で有名な南蔵院の林覚竜副住職様にご協力を賜わり詳しく教えていただきました。最後に、今年新型コロナウイルスの影響で自粛など様々な困難を感じる現状で「手を合わせおまいりすること」の意味を副住職様に伺いました。

林副住職様は、「気づくこと」を教えていただいたと思います。色々なことができなくなって初めて、「当たり前」の大切さに気づきました。一人の時にお寺でマスクを外すと、自然の空気の美味しさが改めて分かりました。免疫力を上げるためには食事や運動が大事だと気づく。自分がいるのはご先祖様のおかげだったと気づいて手を合わせる。非常時だから大事なのではなく、平日頃からとても大事なことだと気づいたのではないのでしょうか？

手を合わせることは特別なことではなく、平日頃の自分の姿を覚えてもらう行為でもあるのですね。

篠栗四国八十八ヶ所霊場、そして南蔵院境内もたくさんの仏様がいらっしゃいます。ぜひ足を運んでみてください。



釈迦涅槃像

全長41m、高さ11m、重さ300tのブロンズ製としては世界一の涅槃像。実際に目の前に立つと、その雄大さに圧倒されます。色んな角度からじっくりとお釈迦様を拝観させていただきました。



御神木+雷神様

雷が落ちた木は天からの力を受けたとても有難いご神木。雷を受けて皮が裂けた部分には雷神様の姿が見えますが、皮が徐々に再生しているのがこれから更に覆い隠していくそうです。

「お墓参り」の感動的なエピソード

第10回 小説家 山崎 ナオコーラさん

お墓参りっていいね!

「墓参り 太宰治 編」

山崎 ナオコーラ 著「文豪お墓まいり記」(文藝春秋)より

六月十九日は桜桃忌だ。太宰治が愛人・山崎富栄と共に入水した六日後、遺体が発見された日であり、太宰の誕生日でもある。多くの読者が太宰の墓がある禅林寺に集まって、冥福を祈る。私は、編集者のMさんと一緒に出かけた。

禅林寺は三鷹にある。太宰は一九〇九年に生まれ、一九四八年に三十八歳で亡くなった。一九三九年に井伏鱒二の媒酌で美和子と結婚し、九月に引っ越してきて、疎開していた期間を除くと、晩年七年半ほどを三鷹で過ごしたようだ。

森鷗外に憧れていた太宰は、こんな文を残している。

どういふわけで、鷗外の墓が、こんな東京府下の三鷹町にあるのか、私にはわからない。けれども、ここの墓地は清潔で、鷗外の文章の片影がある。私の汚い骨も、こんな小綺麗な墓地の片隅に埋められたら、死後の救ひがあるのかも知れないと、ひそかに甘い空想をした日も無いではなかったが、今はもう、気持ちが畏縮してしまつて、そんな空想など雲散霧消した。(『花吹雪』)

そのため、鷗外の墓の斜め向かいに太宰の墓が建てられたらしい。

私たちはまず、三鷹の駅前にあるコラルというビルの中にある「季寄せ 蕎麦 柏や」というお蕎麦屋さんで昼食をとった。移転しているので場所は違っているが、太宰が通っていた店とのことだ。店の前に、太宰の写真がずらりと飾ってあった。

「太宰が食べていた蕎麦はなんですか？」Mさんが店員さんに尋ねる。「あ、社長に聞いてみますね」五十歳くらいの店員さんが答えて、奥に引っ込む。しばらくすると小走りに戻ってきて、「太宰が食べていたのは、蕎麦じゃなくて、うな重なんですよ」と何故か笑う。私もつられて笑い、「それじゃあ、うな重をお願いします」と注文し、昼から贅沢をした。太宰は細い体をしているが、ごちそうが好きだったのかもしれない。

(中略)

ビルを出ると、朝から豪雨がまだ続いていた。傘を差し、靴をびしょびしょにして禅林寺へ向かう。

ノウゼンカズラが咲き乱れる街の中を進む。太宰がキャラ立ちしているのを肌を感じる。写真があちらこちらにある。まるで、三鷹市のゆるキャラのようだ。寺の門前では、太宰クッキーや太宰一筆箋、太宰Tシャツなどの太宰グッズが売られている。太宰本人がこれを見たら赤面するに違いない。しかし、そう思うと余計に、笑えてくる。

墓地の方へ行くと、人だかりができていた。大雨なので少ないだろうという予想は外れ、四、五十人が集まっている。「二時から、お坊さんがお経をあげるらしいです」というMさんの事前情報によって私たちはやって来たのだが、みんなそうであるようだ。私は墓には近づかず、遠くから墓のありそうな方向に手を合わせる。地味系のファッションの人が多い。私の前にいるのは、「オタサーの姫」(オタクサークルの中でちやほやされるひとりの女の子)っぽい可愛らしい顔の女性だった。ストッキングの足首に泥はねしている。墓まいりも大変だ。二時過ぎにお坊さんが現れ、墓前でお経を三十秒ほど唱えたあと、無表情で去っていった。私は墓十個分ほど離れたところで祈った。

墓参りの人々は、お経が終わると自然に列を作り、順にお供えし、手を合わせていった。私も並び、順番が来ると、駅前で買った花と、家から持ってきたさくらんぼを供えた。

(中略)

寺を出てから、太宰ゆかりの酒店「伊勢元酒店」の跡地にある「太宰治文字サロン」に寄った。編集者たちに宛てた手紙や、この時期にだけ公開されるという遺影などが展示されていた。

太宰の手紙は、どれもきっちりとした文字で丁寧に書かれていた。かなり字が上手い人だったらしい。依頼へのお礼や、どうぞ家々にいらしてください、といったことが綴られていて、他人に対しては、とても優しく、礼儀正しく接していたようだ。

電車に乗るために三鷹駅に戻ると、駅前に太宰が身を投げた玉川上水が流れていた。とても浅かった。



(文藝春秋) 発行日 2019年2月25日

お客様の声

國松石材とご縁をいただいたお客様の温かいメッセージをご紹介します

『終の棲家を作り直すこともできて今は安心です』

平成9年に母が亡くなった際に文字彫刻と納骨作業、そして花筒の交換作業を依頼したことを覚えていました。たしか昭和50年に父が亡くなった際にもお手伝いして頂いたのも記憶に残っています。

また、いつも送って頂いている“松ぼっくり”を読んでいたことも今回の相談のきっかけになりました。

私たちには娘が二人おりますが、嫁いでしまっているのではあるお墓の面倒は誰が見てくれるのだろうか? どうしようかな? と思案してました。一度はお寺に相談に伺い墓じまいをして夫婦だけで永代供養して頂くかと悩んでおりました。

ある時娘婿にお墓の今後の相談をすると、お墓があることに賛成してもらい“墓守”をして頂けることを快諾してくれました。

そうすると今度は元々のお墓のことが気になります。元々のお墓は和型で納骨室が地下にあるタイプです。それならいっそ改築して気持ちの良いお墓に入る方が良いのではと考え、國松さんに改築の相談をすることにしました。

納骨室は地上式が良い、地震のことなども気になっており石塔は横型の洋型でと、ある程度の希望はありました。相談していく中で、お墓の石に色々種類があることを知りました。國松さんの紹介であるお寺のお墓を見学に行きました。私たちの好きな緑系の石材を使用したお墓で、その時に初めてお墓のデザインも色々あるんだと気づき、お墓の勉強も楽しんでできました。

その中で今回お墓を作り替えるに当たって石塔に彫る名前は私たちの名字も残していんじゃないかと娘婿に言われ、両家墓という形でお墓を残すことにしました。

國松さんのアドバイスで手書きの字も彫れるとのこと、字が上手な娘に揮毫(きこう)をしてもらうことに。ここでしっかりと私たち、そして次世代の子たちへのバトンパスの形を作ることができました。

こうして終の棲家を作り直すこともできて今は安心です。今後も孫やその子供たちと一緒に過ごせる場所があるのは楽しみです。

ありがとうございました。



南区にお住いの尾形様



改築前



改築後

担当者から一言

尾形様、この度は大変お世話になりました。

今回ご相談頂いた際にご家族がお墓のことをすごく大事に考えて頂いていて、ある程度の希望もありましたのでお墓の形や石の種類はスムーズに決めて頂きました。石の色へのこだわり、お墓の文字やデザインどれを取っても唯一無二の両家墓です。お手伝いさせて頂きありがとうございました。

くにまつ しょうじ
代表取締役 國松 祥治

